

## 学校再編についての住民説明会

日 時：平成28年 7月23日(土) 午後7時00分～8時35分

会 場：中塚コミュニティセンター

出席者：住 民 28人(男20人、女8人)

教育委員会 委員長 後 藤 眞 琴

委員 留 守 広 行

委員 千 葉 菜穂美

教育長 佐々木 賢 治

教育次長兼教育総務課長 須 田 政 好

教育総務課課長補佐 早 坂 幸 喜(司会・進行)

《課長補佐(早坂)》

皆さん、こんばんは。定刻になりましたので、学校再編についての住民説明会、中塚コミュニティセンター会場の部を開会させていただきます。開会に当たりまして美里町教育委員会後藤委員長から開会の挨拶を申し上げます。

《委員長(後藤)》

皆さん、こんばんは。メモを見てお話しすることをお許してください。小中学校の再編につきまして以前から教育委員会の懸案事項でありました。教育委員会では小中学校の再編につきまして、平成26年4月の定例会から継続協議にして協議を重ねてまいりました。そして、平成28年6月の定例会におきまして小中学校の再編についてまとめた美里町学校再編ビジョンを策定いたしました。今日は最初に教育委員会が現在考えている美里町学校再編ビジョンに沿った具体的な取組について簡潔にご説明申し上げ、次にそれに対する皆さんの率直な御意見、お考えをお聞きし、そして皆さんと意見を交換しながら将来の美里町の学校の在り方について考えていく一歩としたいと考えております。お配りしました学校再編住民説明会の開催についてという資料にもありますように、皆さんに今日ご説明申し上げる教育委員会が現在考えている再編ビジョンに沿った具体的な取り組みは、これからできる限り皆さんの御意見、お考えをお聞きし、皆さんと意見を交換しながら、共に将来の美里町の学校の姿のよりよいものを考え出して最終決定していくためのたたき台でございます。詳細につきましては教育次長から申し上げます。皆さんの率直な御意見、お考えをよろしく申し上げます。

《課長補佐(早坂)》

説明に先立ち、本日出席している教育委員及び職員の紹介を自己紹介で行わせていただきます。

(出席者6人が自己紹介をする。)

《課長補佐（早坂）》

それでは、早速ですが学校再編についての説明を行っていきます。須田教育次長の方から説明させていただきます。

《教育次長（須田）》

皆様にお配りをさせていただいております資料の確認をお願いします。資料は3部になります。次第が1枚と、その下に何枚かを左上で綴じた説明会のお知らせというのがあります。それからもう一枚は、説明会の説明資料として、今日の午後の北浦コミュニティセンターの会場から追加資料として追加で配布しています。今日の午前中の説明会でご指摘を受けまして、児童の推移もあった方がいいだろうというご意見をいただきまして、午後の説明会から追加した資料でございます。この3部ありますでしょうか。それでは説明につきましては、何枚か綴じています学校再編についての住民説明会と書いてあるこちらの資料を使って説明をさせていただきます。一番上のチラシといえますか、周知用のチラシにつきましては2点ほどねらいがあります。1点目は、今日から始まります町内8か所の住民説明会を皆様にお知らせするという事です。この下段、下の表にそれぞれの会場と開催の日程日時を記載しております。今日、明日、それから来週の土曜日と三日間にわたりまして小牛田地区5か所、南郷地区3か所でそれぞれこの表のとおり開催いたします。これを皆様にお伝えしたく7月1日号の広報みさとに掲載しております。それから真ん中（中央部分）には、今教育委員長がお話ししましたように現在教育委員会が考えている学校再編、将来の美里町の学校の姿、それをまとめました学校再編ビジョンというのがあるのですがそちらの方の骨子の部分、中学校の再編については、現在の3つの中学校を1校に再編すると、目標ではございますが平成33年の4月開校を目標にめざしていきたい、というのが1つです。それから小学校については、こちらの方につきましても将来的には1校にしたという考えであります。その経過措置としまして中学校区ごとにまず1校に再編し、その後に3校を1校にするというのが教育委員会の考えであります。このような内容をこのチラシ、あるいは広報の記事を通して町民の皆様にお伝えしたいということです。この資料一式については事前に各会場に置かせていただき配布しております、また、そのほかに幼稚園、小学校、中学校の園児、児童、生徒の皆さんに、夏休みになる前に、お子さんに家庭に持ち帰っていただく形で各世帯に配布をしております。今日の午前中の会場でご指摘ありましたが、保育所の子もたちにも持ち帰らせればよいのではないかというご意見をいただきました。この次からは保育所のお子さんの各家庭にも配らせていただきます。これ1枚をめぐっていただきまして、2枚目については教育委員会から住民の皆様へということで、先ほど教育委員長が挨拶申し上げましたものを文面で簡単に書いたものであります。内容の説明は省略させていただきます。めぐっていただき、3枚目以降、ここからページをふっています。1ページから6ページまで、学校再編についての説明会の資料であります。本日この資料について簡潔にご説明させていただきます。別途お配りしました次第と重複する部分もありますが開会の挨拶の後に説明ということですが、6つのポイント、6つの説明内容に分けて資料も作成してお

ります。この6つのポイントをこれからお伝えしたいと思います。1つ目は、中学校の再編をなぜ行うのか、2つ目はどのように再編するのか。①と②につきましては中学校の再編について記載しております。次に③と④は小学校の再編について同じように、なぜ小学校の再編が必要なのかと、そしてどのように再編するのかということを書いてあります。5点目はそれぞれの再編に伴います事業費、費用のお話をしたいと思います。そして最後の6点目は今後の取組についてお話をさせていただきたいと思います。それでは1枚目をめくっていただきまして、2ページの①、なぜ中学校の再編を行うのかということで再編の理由について教育委員会の考え方を書いてあります。さまざまな再編に向けての要因、理由等がありますが、その中から主な理由として2つ、まず生徒の減少が進んでいるということです。それからもう1つは学校施設の老朽化が進んでいる、学校施設が古くなってきているということです。生徒の減少によって、中学校の場合は部活動がありますが部員数が少ないと活動が思うようにいかない部活動も出てきている状況であります。それから中学校の場合はそれぞれ教科の担当の先生がいますが生徒数が減少してクラスの数が少なくなると県から派遣される各教科の担当の先生の数が減ってくるのではないかと懸念が生まれてきます。そのようなことからしっかりとした規模の中学校をつかって、そして各教科の専門の先生を配置できるようにしていきたいという考えであります。次に老朽化の問題でありますがこの綴じた資料の最後のところに各学校の建築した年、それから何年経っているかを掲載しています。これによりますと、40年、50年過ぎるというのが中学校の現状であります。こうした2つの理由から中学校を再編しなければならないのではないかとというのが教育委員会の考えであります。どのように再編するのかという内容ですが、右側の3ページ目を見てください。先ほどのチラシの中身でもお話ししましたように、3校を1校にするということです。現在あります小牛田中学校、不動堂中学校、南郷中学校を33年4月の開校を目標として1校にしていきたいと、仮に美里中学校という名称を付けていますがこのような形で1校にして生徒の学習環境を整備していくべきではないかとというのが教育委員会の現在の考え方です。次の4ページと5ページには小学校についての再編と理由について、再編の内容について記述しています。小学校についてなぜ再編を行うのかというのが4ページの上の部分、③です。教育委員会では、学級替え、クラス替えができる規模の小学校を早くつくる必要があります、このことから小学校の再編を行わなければならないと考えております。このような教育委員会の考え方に対しまして、どうぞ皆さんの方からご意見等をお聞かせいただければと思います。次に小学校の再編の内容ですが、これも先ほどのチラシの中のビジョンの骨子の説明のところでもご説明申しあげました。中学校単位で、4ページの下に図示していますが不動堂中学校区であれば不動堂小学校と青生小学校を一つの小学校に、小牛田中学校区であれば小牛田小学校と北浦小学校と中塚小学校を一つの小学校に、南郷中学校区は南郷小学校1つですので、この3つを将来的には5ページの右上にありますように1校の小学校、美里小学校という形に再編すべきではないかと、そのように考えています。この時期でありますがお配りしております児童生徒数の資料を見ますと、まだ児童

数は一定規模を確保しているということでもありますので今すぐという考えではありません。こちらの方につきましては、今後の児童数の推移、平成33年までの推計はありますがそれ以降の推計を見ながら、児童が減ってくる時期、それを見計らいながらその時期を決めるべきではないかと考えています。今後5年間くらいかけながら、どのような内容で再編を行うべきなのか、そしていつ行うのかをですね、皆さんと意見を交わしながら教育委員会としては内容と、そして時期を決めていきたいと考えています。具体的には平成33年度以降の取組というふうに考えているところであります。次に⑤の費用のお話しをします。次の6ページです。これから、小学校、中学校を再編する場合には多額の事業費がかかります。それについては現在の学校施設を大規模改修して再利用するのか、又は現在の学校施設とは別に新しく建てるのか、この2つの方法によってもかなり金額が変わってくるかと思えます。今日の午前、午後の会場でもお話しができましたが、その辺の事業費を積算して、また、現在の施設が今後使えるのかどうかをしっかりと定めたうえで、それらによっては再編の内容が変わってくるかもしれませんので、それらの数値、事業費の積算を早く行ってくれというのが午前、午後の会場に参加された皆様から出された意見です。今後ですね、全ての学校ではありませんが、老朽化が進んでいる学校については、これから長寿命化ができるのか、あるいは長寿化のためにどれくらいの事業費がかかるのか、それを専門の業者の方に見ていただいて、そして積算していただいて、大規模改修にかかる事業費を出していきたいと思えます。それから新築する場合の事業費については、近隣の最近建てた例からつかめると思えます。それらを比較しながら、今ある学校を再利用するのか、あるいは新しく建てるのか、それらの手法を含めて、そして今教育委員会が考えている再編の内容がこれでいいのか、それらを含めて皆さんと意見を交換しながら、先ほど教育委員長がお話ししたように今お話しした内容はたたき台でありますので、皆さんからどしどし意見を出していただいてですね、皆さんの意見の集約として今後の美里町の将来の学校の姿を皆さんと考え、決めていきたいと思えます。今回、今週末と2週にまたがりまして説明会を行ったあとのスケジュールではありますが、先ほどお話ししましたように、それぞれの大規模改修をする場合と新しく建てる場合の事業費を積算した上でさらに検討を加えていきます。それから9月に予定しておりますが各小中学校のPTAの皆さんにお願いをしながら、父兄の方、保護者の方とこのような説明会をもっともっと開催して、今の考えがこれでいいのか皆さんに説明をして意見を聴きながらさらに検討を重ねていく考えであります。ここには住民説明会第2回目1月と書いてありますが、遅くとも1月には再度もう一度こちらの方にご説明にあがりご意見をお聴きいたします。あるいはそれよりも前に、いろいろな、例えば今日、明日の住民説明会、来週の住民説明会の中でのご意見から再編ビジョンの内容がかわってくれば、変わったなりに、皆さんにご説明しながらご意見をいただきながら、まとめていく考えであります。本日、時間が許す中で皆さんの方から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。添付の資料について説明します。後ろに2枚の資料がありますが、最初は別紙資料の児童生徒数の現状と推計で、この資料につきましては中学校の平成28年、現在の各中学校、各学

年別の生徒数と、再編する目標であります33年度の時の推計の生徒数を書いています。そしてその下には、それを30人未満学級でもっていった場合にどのようなかを書いています。線を引いた下の表については各中学校の各部活動の部員数を書いています。その裏につきましては、総合計画が4月から新しく作られましたが、そちらの方で行った人口推計から拾って児童生徒数のそれぞれについて小牛田地域、南郷地域の推計をデータ上の推計から引っぱっています。ここの総合計画で行っている人口推計は、これから町の定住化を図り、少子化対策をいろいろな面で図って行って目標人口というものを設定しています。その目標人口に沿った推計でありますので、この目標を達成した場合の人口推計でありまして、こうしたものを使って児童生徒数を推計しています。それから最後には、先ほどお話ししました学校施設の老朽化の現状ということで、小学校6校と中学校3校の建設年と建設してから何年経っているかと、それから敷地面積、延べ床面積、そして右側にCRとあるのはクラスルームで普通教室の数であります。これらの資料をこれからの学校再編を考える上で、資料の一つとして参考にしていただければと考えています。以上であります。

《課長補佐（早坂）》

学校再編についての説明ということで概要を説明させていただきました。いまの概要だけで不十分な部分もあろうかと思しますので、質問それから意見含めて皆様の方から頂戴したいと思ひます、何かございますでしょうか。

《男性1（佐々木）》

人が少なくなっているのが大前提という話の内容だったと思うのですが、義務教育課の中で近隣に小中一貫の黎明だったり、私学学園の中学校だったり、そうした学校に人員が流れていっているところは教育委員会で把握しているのか。数値等を把握しているのであれば、その辺の話題を少しお願ひしたいと思ひます。

《教育長（佐々木）》

小中連携ということも当然選択肢の中にあるかと思ひます。今回の説明会につきましては今までの学校教育環境審議会の答申、あるいはそれを基に再編ビジョンというものを策定しました。再編ビジョンを策定し、そして昨年6回ほど住民の意見交換会をし、それらを総合的に教育委員会で継続協議をしながら今回の住民説明会で教育委員会としての一つの考え方、たたき台という表現がふさわしいかわかりませんが、最終決定に向けての皆様のご意見をということで設定したところであります。従いまして、ここで小中一貫とかですね、そういった点について聴く分については、教育委員会としては皆さんの意見として十分承りたいと思ひますけれども、現時点でこの部分が、この場合はこっちとか、そこまではまだ教育委員会として決定しておりません。小中一貫のいろいろな情報、宮城県では色麻町、金成、豊里等々、あるいは県の動きを見ながら、当然選択肢の中に入ってくるのかなと思ひます。現時点では中学校の場合は3校を1校ということで提案、説明させていただいております。

《課長補佐（早坂）》

区域外就学の人数の資料を本日持ち合わせておりません。各学校、数人ずついるということ

は把握しています。その程度しか明確にはお答えできません。

《教育次長（須田）》

黎明さんとか私立学校さんに町内の生徒さんが、町の中に中学校がありながらほかの学校に行かれているという問題かと思われま。それがこの美里町の学校に入りたくないから違うところへ入るといふのであれば問題があります。しかし、町外の学校に行けるといふ選択肢が広がるということは、それはそれで良いと思ひます。しかし、そちらを皆選択するからといふて、そちらを真似た学校を、真似たといふか利点を取り入れた学校をつくっていくといふことは良いかと思ひますが、町としては今、黎明さんが中高一貫、あるいは近隣にはありませんが小中一貫の学校ができていけば、それらの良いところをとらえながら、町に標準的な学校を1つ作っていくといふのが現在の考えです。町外に出ていくものについてその原因は探らなければなりません、しかし、それがすべて悪いと捉えなくても良いのではないかと思ひます。

《男性》

施設が老朽化しているといふお話であったが、青生小学校が37年、南郷小学校が32年と30年以上の築年数となっています。小牛田中も51年もなっているのですが、33年の統合まではこれらの施設は使えなくなるのですか。まだまだ使えるのですか。

《教育次長（須田）》

33年4月の開校を目標にこれからがんばっていくといひますか、進めていきたいと思ひています。そこまでは当然使える学校として維持していきま。特に中学校が46年、51年とかなり経過してきています。この2校については毎年、毎年修繕を加えながら、なんとか使っているといふのが現状であります、33年4月までに開校するとなれば、場合によってはこの3校のどれかを大規模改修し活用して1校にするといふこともあります。どのようなケースになろうと各学校の環境については統合するまでの間はしっかりと整えていきたいと考えています。

《男性》

9校が2校になるわけですが、知りたいのは1校当たりの維持費はどれくらいかかっているのでしょうか。なぜかといふと、美里は少子化が進んで人口減少になり税収も少なくなつてきます。そういった部分も今回の再編に何かしらかわっているのではないかと思われま。そうした時に、この地域といふのが南郷までの地域になつてしまつて、今9校で1年間どれくらい費用がかかっているのか、知っている範囲で教えていただきたいです。9校が2校になるのでかなりのメリットが生まれると思ひます。

《教育次長（須田）》

9校で施設の維持費は約1億円と記憶しております。これが2校に集約した場合にどれくらいのコストになるかといふことですが、そこまではまだ計算していません。ただ、1年、1年のランニングコストといふのも大切かと思ひます。9校で運営した場合のランニングコストと2校で運営した場合のランニングコストときちんと積算をしてお示しをしな

ければならないと考えています。

《男性》

そのお金が教育に回れば良いと思います。2校になった時のデメリットも間違いなくあると思います。広がるので小学生の通学時間も、バスにはなるとはありますが、長いのでどれくらいバスに乗っているのかなあと、どこを中心にして。なので、考えて欲しいのが小中一貫校です。小中一貫校が最近の流れになっていて、その地域、南郷なら南郷、小牛田は幼稚園が3個一緒になった流れもあるから、せつかくお母さんたちも仲良くなっていて、そこでもつながりはあるのですが、今現在そこで3つに分かれて、小牛田、北浦、中塚で別れて、そうでなくそこを1校にするならなんとなくわかるのですが、例えばそこで小中一貫校、不動堂中学校区で小中一貫校を一つに。9を3にすることを町では考えられないのでしょうか。もう少しいろいろな面から考えられませんか。

《男性》

大きいマンモス校の一つにするか、それとも財政的にどちらかのやつで、町としては大きい方がよいと思うのですが、やはり子どもたちがかわいそうで、親だっかわいそうです。この中塚から若い人もいなくなるとは思います。だからあまり大きいのも良いものではないと思います。33年でまだ1000人以上もいるのでまだまだ大丈夫かなと思うのですが、50年も経過している学校なのではないとも思うのですが。子供たちもなかなか運動能力も減っている、歩いていないから。

《教育長（佐々木）》

先ほども申し上げましたように小中一貫のことは全然考えていないということではありません。いろいろ、これから、明日、来週と意見をいっぱいお聴きするわけではありますが、私たちの基本的な考え方は、一番に子どもたちが中心です。子供たちにとってどうあるべきなのかです。2点目としては地域に支えられてきた学校であります。統合するにしても学校が無くなるということは地域のコミュニケーションとかいろいろと想定されます。地域の住民の方々、保護者を含めてそういった考え方を教育委員会としては十分に意見をお聴きしながら進めていきたいと、そして3つ目は、やはり財政の面だと思います。方向性がある程度決まれば、町長にお願いをして、総合教育会議等々がありますが、3点目は財政なのかなと考えています。例えばですが、小牛田中学校区で一つの小中一貫校、あるいは不動堂中学校区、南郷中学校区、本当に理想的です。しかし、そこに持っていくためには、小学校を1つずつになってもらう、そこに中学校が入ってくる、校舎の問題等々、ハードル、課題がありますが、その辺を十分に議論し、ご意見をいただいて選択肢の一つには十分になると思います、小中一貫校ですね。ただし、小中一貫校でもメリット、デメリットはやはりあるようでもあります。中学校同士が一つになった形と、小学校1年から9学年まで、いろいろとやり方はあるようですが、例えば低学年が1年生から4年生、中学年として小学5、6年と中1の学年、高学年として中2と3の学年、3つに分けていわゆる小中一貫の教育をやっていくと、そういったスタイルでやっているところも確かにあります。そういう議論も小中一貫校

の場合にはやらなければならないし、子どもたちにとって将来的に何がいいのか、こういった学校再編というのは、明日のことは今日決めましょうとはいかないと思います。やはり5年、6年、教育委員会としては第1期を5年と考えています。その後、第2期を5年として進めているところではありますが、時間をかけてやっていきたいと思っています。もちろん、小中一貫校も視野に入るかと思っています。

《教育次長（須田）》

教育委員会として今考えている1校というものではなくて、幼稚園単位といいますか、南郷は南郷、不動堂は不動堂、小牛田は小牛田で小中をまとめていくという考えですよ。先ほどご意見があったように、一回で大きくするよりも、もう少し小さい範囲での学校再編の方が適しているのではないかという意見なので、こうした考えに対して皆さんがどのようにお考えであるのか、ご意見をお聞かせいただければと思います。

《女性》

ザックバラに話をさせていただきます。中学校が一つになるのは、まあ仕方がないかなと思います。小学校が一つになるのは反対です。小さければ小さいほど手と目をかけることができます。一クラス25人いてそこに一人の先生がいるのは変わらないからそれでいいのではないかという安易な考えがあるかもしれませんが、やはり隣のクラスの先生も見て、お互いに見てというように目が届くのは小さい集団だからこそできることです。私は保育の現場にいますが、今実際保育所だけでなく幼稚園との一元化という流れになっています。小牛田幼稚園もしかり、南郷幼稚園もしかり、大きくなったからと言っていいことは一つもありません。たぶんそこに預けているお母さんたちはこういうものだろうと思ってやっていると思いますが、その前の小さい小牛田幼稚園を知っている人から大きくなってからのことは良いことはぜんぜん聞かれません。働いている私たちからしても働く人間同士のコミュニケーションも取れなく、慌ただしくなる一方で、子供たちの人数は増えて騒がしい中で情緒が荒れるばかり、そういう現場の声を教育委員会の方々が知っているのか、移動とかするから学校の先生たちもそんな話ではできないと思うのですが、やっぱり現場の声って大きいと思います。この預かるという面からしては、私は保育ですが、小学校では人間関係もちろんですが学力も上げなければなりません。そうすると、ただ大きくなるだけでは学力が低下していく子供が著しく目立ってくるのではないのかな、と現場にいて日々子供たちと接している私は手にとるようにわかります。一つの小学校になるのは反対です。人数だけを見れば、中塚が北浦と小牛田と一緒に一つ、不動堂と青生と一緒に一つも仕方ありませんが、それも2、3年のうちではなくて、ここにもあるように5年後までに考えてそこから実際にスタートするのは8年後、10年後、となるとまた人数も変わると思うし、生活環境も変わると思うので、それは視野に入れていくべきだと思いますが、美里小学校1校という考えは廃止していただきたい。そのように強く思います。運動面の低下、お母さんたちが一緒に歩いているのを見るとなんか世知辛い世の中になったなあと思いますが、そういうのを踏まえて安全面を考えてのバス通学は仕方がないかなと、町の意向にすべて反



対というわけではなく、こちらの意見を聴きながらその折り合いを考えていただければ良いと思います。美里小学校は反対ということでよろしくをお願いします。

《課長補佐（早坂）》

ただ今、ご意見をいただきましたが、先ほどのご意見の中で通学方法について未だお答えしておりませんのでお答えさせていただきます。

《教育次長（須田）》

通学方法ですが、もし、中学校が一つになれば、そこに対してかなり距離がある生徒さんが出てまいりますので、やはりスクールバスの運行はやらなければならないと思います。先日、涌谷町の籠岳中学校と涌谷中学校が統合した後のスクールバスの状況を聴いてきました。スクールバス5台を新しく購入して運行しているそうです。委託で年間2千万円がかかるということでした。5台を70人弱のお子さんの送迎に使っているとの状況です。本町の場合は数がもっともっと多いので、その倍以上のバスが走らない限りは生徒のスクールバスとして十分ではないと考えています。朝は、始業時間が皆一緒なので一便、同じ時間に学校に着くようにいろいろな方面から学校へ送っていく、帰りについては、部活動をしないう生徒は少し早い時間帯で、される生徒は部活動の終わる時間にとるように2便にしているそうです。最低、そのスクールバスの体制はつくらなければいけないと考えています。当然、3つの学校が1つになれば、先ほどもありましたように、施設の維持費等はかなり圧縮されるでしょうから、その分を送迎に充てていくことになると思います。スクールバスでの送迎が前提になると考えています。

《男性》

3校だ、どうということはわかったのですが、場所は決まったのですか。これによって距離も出てくるので、場所も私たちはわからないのですよ。場所がだいたいどの辺に想定しているか、わかる範囲で教えてほしい。

《教育次長（須田）》

現段階ではまったく想定はしていません。ただ、これから3校が、いろいろな意見もあるでしょうが、3校を1校にした場合にどの辺かということはこれから探っていきますけれども、その前に今ある学校が使えるのか使えないのか、そこから始まりますし、新しく建てた場合にどこかというのはこれからの話になってきます。もし、新しく土地を求めて建てる場合に、町として3ヘクタール、4ヘクタールの土地がありませんので、新たに民間の土地を取得する方法しかありません。新しく3ヘクタール、4ヘクタールの土地を取得するとなれば、町内では農業振興地域にかぶさっているところが多いですから、そちらの規制の解除等も含めて土地の選定を考えていかなければなりません。

《男性》

いろいろと反対の話をするのですが、最初に話したのも人が減っていく中で町内へ排出している人数を聴いて、なんで排出しているのか、引き留める方法とか、子供たちを増やすことをやっていく方が現実味あるとか、子どもがいなかったらじゃ合併という発想の方の議

論が欲しいと思った。反対するのは、最終的に学校が地域からなくなることです。中卒なんか特に小学校がなくなったら学校は無いわけで、幼稚園もありません。子供たちがいるからやっぱり人が集まるし、というのを考えると中卒地域小学校を取ってしまったら、間違いなく小牛田の街の方に行くのでしょ、本当に今ようやく人が集まってきている地域もあるわけで、荻塚なんかいっぱい住宅が建ってきているので、ようやくまた子どもたちが増えてきたという地域もある中で、またそうやって中卒地区だけのことを考えると、余計また住みづらい地域になって、最終的に戻って来なくなる、そのようなことも考えているわけです。経費の面もわかるのですが、保育の現場の話もあった通り、小さければ小さいほど手をかけてあげられるし、確かにクラス替えがないから同学年でのコミュニケーションというのが固執してしまう、固定化してしまっって中学校になった時になかなか新しい友達ができにくいということも中学校では確かにあるかのように聴いていますが、そういったところを乗り越えられる、そういったことも含めて小さい方が最終的には小学校までの基本的な生活習慣も含めてですが、面倒を見てあげた方が将来的には子供たちのためというところに繋がるのではないかと私は思います。中学校の先生たちの県から配置される数が減らされるという話もありましたが、主要五教科については専門外で教える先生はいないと思いますが、例えば家庭科とか美術とか音楽とかで免外で教える先生が出るとは思います、抜本的に教育現場が崩壊するくらいまで県としては減らさないと思います。小さいながら良いところがあると思うのでこのまま継続をしていただきたいと強く思います。地域的なことを考えればマイナスの部分が多いと思います。小牛田、不動堂は良いと思いますが、南郷も中卒と同じように危機感はあると思います。

《課長補佐（早坂）》

ただ今の意見は小学校の部分でということでもいいですか

《男性》

小学校ということで話をさせていただきましたが、中学校の方についてもなんとか現状維持でがんばって欲しいです。

《男性》

5年前に大崎市から中卒地区に移住してきたのですが、ここを選んだ理由はいくつかあります。その理由の一つに中卒小学校、小さな小学校だけれどもむしろ小さいことによって目の行き届いた教育が受けられるのではないかとということが一つの理由でした。実際に入学をさせていただいて、その通りの教育を受けさせていただいています。みんな兄弟のように、家族のように仲良くさせてもらって、結果的にここに移り住んできて本当に良かったと感じています。今後再編という話になると自分の将来と直結するので真剣に考えるべきもので、やはり先ほどのご意見にもありましたように大きくなればなるほど子どもたちにとってストレスを抱えることになると思います。小さな教育のメリットを生かしてこのまま継続できないかご検討をいただきたい。私は、大崎市の生まで、大崎市の小中高と過ごしてきたのですが、特に中学校について言わせていただくと、大きい学校であればあるほど荒れや

すくなるというのが実体験としてありますので、これから先、3つの中学校が1つの大きな学校に自分の子供が入っていくということを考えると親としてはすごく不安に感じてしまいます。それよりは小さいことによるメリットを生かしてこのまま残していただきたいというのが親としての願いです。

《女性》

給食センターの時もみんなで反対したのですが、今ここでたたき台とは言っていますが、もうすでに決まっているのではないですか。私たちの意見を聴きたいのなら説明会ではなくて、相談会とか意見交換会といった意味になるはずなのに、初めから説明会となっているから、するというのが前提の下での会ではなかったのかなぁと思います。

《委員長（後藤）》

先ほどの挨拶の時に申し上げましたように、これはあくまでもたたき台です。何もないところでお話することは抽象的な話になってしまっていてできないんじゃないかと、去年の再編ビジョンを考えるときに住民の方と話をした時に具体的な案を教育委員会で考えて出してくれた方が話しやすいのではないかという意見が何人かから出ましたので教育委員会としまして、真剣に考えまして、現在の教育委員会の考え方はこうですと、これはあくまでもたたき台として、これを基に住民の方の意見を聴いて、それで一緒にいいものを、より良いものを考えていきたいと思います、これは嘘、偽りありませんのでよろしくお願いします。

《女性》

例えば、ここで反対の人が手をあげて、反対の人が多かったら反対の方に動くということですか。

《委員長（後藤）》

それは考えなければならぬと思っています。反対の意見が多い場合には、ごり押しするようなことは考えていません。

《女性》

今、聴けば反対の方が多いわけですから。

《教育次長（須田）》

参加者の方の多数決で決めるものではありません。皆さんから意見をきいてですね、そしてまた会場においていただいている方もいっぱいいますし、また今後保護者の方々ともお話し合いをしながらですね、いろいろな考え方を模索していきたいという考えです。これが決まったことではないことは委員長が言っている通りです。先ほどからいろいろな意見が出ていますので、同じ再編でも。

《課長補佐（早坂）》

今日これで決めますというのではないです。先ほどお話ししましたように保護者の方々の話し合いの場を設ける、今日の話合いの内容、それから保護者との話し合いの内容、それを踏まえてもう一回来年1月になろうかと思えますけれども、また設けるようになります。それから今日ここで3回目です。あと5つの会場でもお話を伺いながら、今後の部分を考えて

いくこととなりますので御理解いただければと思います。

《女性》

実際現場にいる先生方はどう思っているのでしょうか。大きくなった方が良いのか、それとも今のように小じんまりとやっていった方がやりやすいのか。先生の目も行き届かないと、先生方の気持ちを知りたいと思います。話し合いはしているのでしょうか。

《教育長（佐々木）》

教育委員会で美里町学校教育環境審議会というものを立ち上げまして、平成26年の3月にそこから答申をいただき、その答申についてアンケート調査を第1回目実施しています。幼稚園、小中学校の保護者、それから先生方、その時は突然のアンケートでしたので意識調査的なアンケートですね、その中で先生方は中学校については3学級程度が望ましいのではないかと回答をいただいております。ただ、その後、教育委員会がこのような話し合い、説明会を開始し、具体化しようとする段階での保護者、先生方との説明会は実施しておりませんので、これからそういったことなどもやりながら、さらに先生方の考え方、当然聞かなければいけないと思っています。

《男性》

小学校の再編の部分で、教育委員会の方でクラス替えのできる規模の小学校を早くつくる必要があるというふうにあるのですが、なぜ、そこを早くする必要があるのか、どうしてクラス替えのできる規模という枠でここに提示されているのかを御説明いただきたいと思っております。

《教育長（佐々木）》

早くという表現ですね、できるだけ早くとかありますが、もうすぐという意味ではありません。その表現が少しふさわしくなかったかもしれません。先ほどもいろいろとお話しが出ていますが、美里町の六つの小学校で、完全に一学年二クラスは不動堂小学校だけです。そのほかは、学年によって二クラス、現在ですけれども、あとは一学年一クラスという実態であります。32年、今から5、6年しますと、推計では不動堂小学校だけが二クラスです。一学年一クラスの人数の内訳を見ますと、10名前後から24、5名という推計であります。1年から6年まで、同じクラスでずっと過ごすのもいいとは思いますが、できれば現在の子供たちの様子、一人兄弟とかそういった状況を見た場合、より多くの友達と接することによってそのコミュニケーションとか社会性とかそういった能力が身に着くのではないかと、それでクラス替えができる規模の学校が望ましいのではないかと、そういった審議会からの答申等も受けております。それを基にビジョンを作成しております。確かに小規模校は小規模校の良さもちろんあります。その良さを教育委員会としてどういうふうに、隣の学校と共同授業を行うとかいろいろな手法があろうかと思っております。そういった努力もちろん必要でありますけれども、将来的にはクラス替えできる30人未満学級ですね、今想定しておりますけれども、1年から6年まで単学級よりも、子どもたちにとってどっちが良いのかという考え方で進めてきました。

《委員長（後藤）》

補足説明をさせていただきます。このクラス替えのできる規模の学校がいいのではないかと教育委員会で考えました理由は、一つは先生が多い方が良いのではないかと、例えば、先生10人いる学校と、私の例で説明をさせていただきますと、私は大学の方の学生と何十年もつきあってきた時に、偏見が自分の中にできて、この子はよく予習もしてくるとか、そういうものが自分の中にできると固定観念みたいになかなか改められないのですね、そうすると小規模校だと、先生がこの子はこういう子だとなると、引き継ぎの中でそういうことが書かれると、引き継いだ次の先生がそういう目で見ちゃうのではないかと、先生が多ければ別な見方をする先生もいるのではないかと、そういうことから私はある程度の学校であった方が子供にとっていいのではないかと思います。第2の理由は、子どももいろいろな人と付き合っ、て、こういう感じ方の子どももいるのか、そういうことを早くから学んでいた方が子供たちにとって望ましいのではないかと、このような理由から教育委員会としてはこのようなことを、これは教育委員会の現在の考えで、それをいろいろ住民の方から意見を聴きまして、訂正するところは訂正し、そういうことをするために今日もお話をしているつもりですのでよろしくお願いします。

《女性》

質問が重複していたらすみません。意見交換会に参加していたので、教育委員会でどのようなことを考えているかは聴かせてもらっていたのですが、私は小牛田の方の意見交換会の方に参加できなかったため、南郷の方の意見交換会に参加させていただきました。その時の住民の方々の反応がものすごかったのが印象にあります。あちらは小中一貫校になるということで練牛小学校の閉校を認めたと、いうことを語っていた方が何名もいました。そうして学校をなくした地域の方たちがそういうふうに語っているというのが、今の中卒に中卒小学校がなくなるということは同じことが起きるとい、私の中では境遇的なものをちょっと感じました。あの時、保護者の方に優先に話しているため住民の方は黙ってくださ、いという発言もありました。それで私はその熱くなっている方々とのやり取りになっていた、ので、なんなのかな、これは、と、思っていました。答申書の話が教育長の話が出ていたのですが、幼稚園でいきなりアンケートをもらいまして、よくわからないけれどアンケートだから書かなくてはいけないと書いたのがあのアンケートだと思っているのです。私自身もそうでした。なんで再編ビジョン、教育委員会で出している再編ビジョンは、こういった説明会を重ねていき、意見交換会とかという形の方が、ぶっちゃけ、先ほど決まっているのではないですか、口に出して言うかどうかですけれども、私もそう思っていました。なので、意見交換会も説明会と決まったことを聴かされるかなって感じで参加していたところもあったのですが、じゃ答申書の結果、意見交換会で見せました。それを教育委員会で持って帰ります、今日こういったことを持ち帰りました、その報告はなされていないですね。意見交換会のことで何か住民にお知らせしたことってあったのですか。

《女性》

南郷の練牛小学校の近くに住んでいますが初めてききました。すごいことになっているんですね、うちの近所の人たちも行っているんですね。

《女性》

そうですね、私はそう聞いたので、小中一貫校だと思っていたのにどうしたことなのか、という感じで話がありましたよね。皆さんもその会場にいらっしたと思うのですけれども。でも、結果、中塚小学校もなくなる、ということを考えると同じですよ。住民がいなくなったり子どもがいなくなったり、やはりあると思います。答申書のやつ、私は気になっているのは、もう一回こういうわかる状態になってから答申書をもらうということはできなのですか。皆さんに再編ということを言いました。今回、私15日に小学校から冊子みたいのをもらいましたけれども、広報に載せただけで説明会があります、それで住民がみんなわかりますというのはちょっと乱暴だと思いました。もうちょっと先に、せめて3週間くらい前に別な1枚ものの何でもかまいませんから、こういった日程で広報にものせましたが、参加していただいたらというような文書が1つあってもしかりだと思います。

《女性》

やはり遅いですよね。本当に集める気があるのか、初めに15日っていうのを見て、これ逃げたいから15日にしたんだなって思いました。

《女性》

正直、1週間で、予定って皆さん立つんじゃないですか。社会人だったらなおさら仕事だったりありますから、ちょっと乱暴ですよ、やり方が、やり方という失礼なのかもしれませんが、その辺も教えていただければと思います。

《教育次長（須田）》

最後の事務的な話から。事務の責任者である私からお詫びを申し上げます。7月1日の広報に載せました。それで、去年までは7月15日にも区長さん方の配布があったのでその機会があったのですが、1日の広報に載せて23、24日、あるいは30日だと期間が空きすぎてですね、例え広報を見て頭の中に入っているとしてもその時期になると熱がさめたり、忘れてりするのですね、それで、今回は15日の日付で子どもたちに持たせたのは、この時期が一番いいだろうなって私は思いました。というのは、出来るだけ身近な日に、一週間前ですけれども、その時期の方が効果あるのではないのかなって思って15日に出しました。あまり早く出し過ぎても、忘れてしまうといえますか、

《女性》

2回は出せないのですか。子どもを通して1枚でもいいので。

《教育次長（須田）》

今回は資料を綴じましたが、上の1枚だけでも早く配って欲しいということですね。

《女性》

そうですね。

《教育次長（須田）》

わかりました。その件につきましては、今後周知させていただく場合は何度も徹底して周知していきます。間違っても、今回はこの場を逃れるために時期をずらしたとか、できるだけ少なく来て欲しいとか、その考えはまったくありません。できるだけ多く来ていただいて、皆さんの意見を聴きながら、それから先ほどから話していますがこれは決まったことではないので、これから皆さんの意見を聴きながら、そしていろいろな案で。それから、話しが脱線して申し訳ありませんが、小牛田地区の2つの中学校が古くなってきていますので、今このままにしておくことはできないと思います。大規模改修か、あるいは建てるかという方法を取らなければなりません。その時に、小牛田中学校、不動堂中学校に多くの金額を投じて新しく建てる、2つを建てるということはかなり財政的に負担がかかりますので、それが建てた後に50年くらいのスパン生徒の数などを見ていった場合、投資的なものはどうであろうか、その問題が出てきます。それで、直して使おうと、直す場合は大規模改修で国の予算から補助金をもらう場合は30年の長寿命化を図らなければならない、30年の長寿命化が図れる施設なのか、それらを調べて、今の小牛田中学校と不動堂中学校の年数がたっている校舎をなんとかしなければならぬというのが教育委員会の思いです。それと合わせて、まだ30数年しかたっていない南郷中学校のこと、南郷中学校については生徒数が今130人です。今3年生が59人で来年に入ってくる今小学校6年生は39人しかいませんので、来年度また20人減ります。学年で110人ではありません。3学年で110人ですから、そのように減少している南郷中学校のこともいろいろ考えなければいけないということで、中学校を一つにして、きちんとした教育環境を整備した方が良いのではないかが中学校に対する考えです。それと合わせて、小学校の不動堂小学校も青生小学校も築年数がけっこう過ぎていきますので、青生小学校についても児童数が減っています、そうした面も含めて小学校が将来どうあるべきか、ということに合わせて考えたうえで中学校の整備をしなければいけないという考えです。今回、遠い将来かもしれませんが小学校を1校、そして中学校を1校というのを教育委員会で話しをさせていただきながら、本日のような皆さんの地域とのかかわりを聴きながら今後方向性を変えながらも決めていきたいという考えであります。

《男性》

そこが正直な思いだと思います。そこを第1の理由として正直に言えばいいと思います。子どもたちのことはわかりますが、実際の本音はそこですね、それをわざわざ2つ目に持ってきて、“ついでに”みたいなものがあるから、こっちとしては、子どもたちのためと言うなら少人数の方が子どものためですよって言うし、その本音でぶつかってこないとこっちだって“しらん”となるわけですから、財政的にこういう状況だから建てざるをえないというのを全面的に正直に伝えないと伝わらないと思います。なので、ほかの会場でどういう話になっているのかはしりませんが、今言ったところが一番でしょうねって思います。

《教育次長（須田）》

まったく、その通りだと思います。明日からの説明会では反省し説明をしていきます。

《委員長（後藤）》

補足させていただきますと教育委員会で、この再編の問題を話し合うには、財政の問題は町長部局の問題ですのでそれを最初のものとしては考えておりません。

《男性》

議論のうえの話と、本音では違うのではないですか。

一番のネックはそこ（財政のこと）だと思います。私たちはそんなことは考えないで話し合いました、話し合いはいくらでもできますよ、でも背景にあるのはそういうこと（財政）があるはずですよ。では財政が潤ってきたら今のままでいいのではないかとということです、我々からすれば。本音を言ってくれた方が伝わってきますよね。

《委員長（後藤）》

私も美里町の一員ですので、財政的なことは私の頭にはあります。

《男性》

（学校を建設するので）税金を上げるかとなったら、“じゃ、しょうがない”ってなるかもしれない。

《委員長（後藤）》

そういう意味だったら、確かになるでしょう。

《男性》

そういうことになってくるのではないのでしょうか。

《男性》

この美里にどういう魅力を持たせますかってことです。人が減っていくことがありきになっています。ほかの地方では人を増やすために頑張っている自治体があります。例えば、そういったところに視察に行ったとか、今回の説明会でどこかをモデルケースとして教育委員会で見に行ったりはされていますか。

《教育長（佐々木）》

一つ目ですが、人口が減っていく、減っていくと言っているが、教育委員会でどういうことをやってきたのかと、前にもご意見をいただきました。今日の午前、午後の説明会でもそのような話が出ました。それで、教育委員会として大きなイベントをやってどうのこうのというのではなくて、現段階ではとにかく充実した学校生活、魅力のある学校生活、子どもたちが生きがいをもって楽しい学校を、まずはそれを最低限度やってみましょうと、学力も上がり、それから思いやり、健康・体力等々、できるだけ美里の町から子どもたちがこういう学校で勉強したくないといったようにならないように、先生方と教育委員会で常に連絡を取り合いながら子供の実態を見極めながらどこの自治体でもやっていることと思いますが、今それで一生懸命やっているところでもあります。生徒を増やすためにほかにいろいろなやり方があるのではないかとということもあろうかと思いますが、現段階では子供たちの学校生活、充実した学校生活がどうあるべきかということでやっております。それから視察の件ですが、教育委員と昨年、栗原市の金成にお邪魔をし、金成の小中一貫校ができるまでの経



緯、それから栗原市は数多く学校再編を行っている市でもありますので、そういった状況等の説明をお聴きしてきております。

《委員長（後藤）》

このようなことを言うと皆さんに笑われますが、美里町の小中学校に来たら、塾に行かなくともちゃんと基礎学力ができる、そういう小中学校をつくりたいと思って教育委員会などで話すと、それは夢のまた夢だというふうに思われているのではないかと思うのですが、できたら、そういうふうにしたら少しは近隣の町から美里町の小中学校に入れたいという親も出てくるのではないかと思ったりしています。これは笑われるかもしれませんが、そういうことも考えています。

《女性》

先ほど、先生がこういう生徒だというふうに偏見を持って見るかもという発言の後にそういう話を聞いても私は響いてこないのですが。それから栗原の再編の話がされましたけれども、こちらの方（視察の有無について質問した男性）が言っていることはどうやって子どもを増やしていったかということだと思います。過疎化になったところを見に行っても再編の検討ではなくてというふうに思うのですけれども、どうでしょうか。

《教育次長（須田）》

美里町と同じ課題を県内の各市町村は抱えているわけです。このまま子どもが減ってきて本当に子どもの数を増やしたい、あるいは人口減少を止めたいという思いは重々あります。今、大崎市でも動いています、登米市でも動いています。先日涌谷町に行ってきたして、少子化を止めるため、人口減少を止めるために動いていても、しかし、現実的には子どもの数が減ってきているので統合を平成15年から計画を作って、途中震災があって17、8年かかっていますが来年の春で完成するという話でした。町としましては、そのような視察はまだどこにも行っていません。もし、良いモデルケースがあればすぐにでも勉強させていただいてですね、これから子どもたちを減らさない、子どもたちが増えるようなまちづくりをやっていくということが大変重要なことだと思います。しかし、先ほど人口推計をお話ししましたけれども、町として人口を食い止める、そして少子化を少しでも回復させるためにいろいろな施策を行って行って、2060年に出生率を1.8まで伸ばしたと、伸ばす目標を立ててそれを実際に実現した場合の人口推計で今、数を見ています。それでも40年後には20%減ってしまいます。ですので、がんばりますけれども、子どもたちが減らないように町ではがんばらなければならないのですが、しかし、減るのは減ることとして一つの現実として受け止めた中で、学校の再編も考えなければならないと考えています。子どもたちの数が減っていくことも真摯に受け止めて今後の学校の在り方についても考えなければならないと、2面からの政策を打たなければならないと思います。その中の一つとして、これから減っていく子供たちのことを考えながら、施設の古くなっている問題と合わせながら将来の学校の姿を考えた結果、1校1校というのが教育委員会として考え出した考えです。今日、いろいろとお話しをいただきました。前半にいただきました今の中学校区単位で小中一貫

校体制とか、また先ほど教育長からお話しした金成小中一貫校の例、あそこは平成の大合併の前の旧金成町の単位で小中学校を集めて行った例です。そういった方法も一つあるのかと思います。また、現状維持で、このまま頑張ってくれというのも一つの考えだと思います。これらを踏まえて、今後調査をします修繕に係る費用とか、建設にかかる費用とかを加味しながら、時間をかけて、回数を踏みながら、皆様のご意見をうかがっていきたいと思います。それから、説明会というのは、まったくの間違いでありまして、この次からは意見交換会とか、そのような言葉を使わせていただきますのでよろしくお願いします。

《男性》

教育委員会というのは行政ごとの単位で、お話を聴いていますと美里町の問題は美里町の中でなんとかしなければならぬというふうに聞こえてきます。旧南郷町のことをぜんぜん知らなくて失礼なことを言うこととなりますが、旧南郷町の場合は旧小牛田町のよりもっと近いところとくつつくことも十分にありきではないかと思います。農協は行政の区域ごとに再編されたわけではなくて、地域ごとに再編してJAみどりののくくりになりました。それが行政の区分けを完全に超えているわけで、教育委員会も同じような考え方はできないのかなって思います。

《教育次長（須田）》

今、お話しいただいたのは貴重な意見だと思います。私も個人的にはそのような広域的な取組というのは必要だと思います。今、法の定めでは義務教育は市町村単位で行うよう定めてありますが、確かに今美里町の75平方キロメートルの面積は長いですね。私も旧南郷町出身ですが、正直言いますと旧小牛田町より鹿島台、矢本、涌谷の方が近いです。特に南の地区では。それで今お話しいただいたように、この美里町の細長い地形の中でもっとも広域的な取組の中で、周りの市町村も同じ課題を抱えていますから、そのような広域的な取組は絶対に必要とは思っています。しかし、そこまで踏み込んで考えてしまうと、また校舎の古い話で申し訳ありませんが、今ある校舎に対してはここ3年、5年の中で大規模改修を行うか何かをしなければならないと思います。それに間に合わせるような時間がないのではないかと、いくら美里町が呼びかけても周囲の、あるいは県教育委員会等の考え方もありません。もし、行くとすれば組合立教育委員会をつくって組合立の学校の設置となると思いますが、そこまではかなり高いハードルがいろいろとあると思います。よって、今はこの町の範囲の中でなんとか考えていこうと、短絡的ではありますがこのような考えで出させていただきました。貴重なご意見ありがとうございました。

《課長補佐（早坂）》

そのほかにありませんか。

なければ、本日の学校再編についての住民説明会、本来意見交換会と言うべきでしたが、この会を閉じることにしてよろしいでしょうか。

皆様から大変貴重なご意見を多数頂戴いたしました。これをもって閉会としたいと思います。閉会の挨拶を佐々木教育長が申し上げます。

《教育長（佐々木）》

今日、7時から1時間半にまたがる長時間、土曜日の夜の貴重な期間に、この学校再編について沢山ご意見をいただきありがとうございました。決定ではありませんので、くどいようですが、決して決まったからこれでどうですかではありません。これから美里の子どもたちのためにどうあるべきか、いろいろと議論を重ねて進んでまいりたいと思っておりますので今後とも御理解と御協力をお願い申し上げまして閉会の挨拶に代えさせていただきます。今日はありがとうございました。